2022年６月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年５月10日

上 場 会 社 名　株式会社アイキューブドシステムズ　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　4495　URL　https://www.i3-systems.com/
代　表　者　(役職名)　代表取締役社長 CEO　(氏名)　佐々木　勉
問合せ先責任者　(役職名)　経理財務部部長　(氏名)　小野　崇　(TEL) 092-552-4358
四半期報告書提出予定日　2022年５月10日　配当支払開始予定日　－
四半期決算補足説明資料作成の有無　：有
四半期決算説明会開催の有無　：無

(百万円未満切捨て)

１．2022年６月期第３四半期の連結業績（2021年７月１日～2022年３月31日）

（１）連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年６月期第３四半期	1,821	－	665	－	666	－	460	－
2021年６月期第３四半期	－	－	－	－	－	－	－	－

(注) 包括利益 2022年６月期第３四半期　460百万円(　－%) 2021年６月期第３四半期　－百万円(　－%)

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
2022年６月期第３四半期	87.71	86.09
2021年６月期第３四半期	－	－

(注)当社は、2022年６月期第２四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2021年６月期第３四半期の数値及び2022年６月期第３四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年６月期第３四半期	2,857	2,137	74.7
2021年６月期	－	－	－

(参考) 自己資本 2022年６月期第３四半期　2,135百万円　2021年６月期　－百万円

(注)当社は、2022年６月期第２四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2021年６月期の数値については記載しておりません。

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
2021年６月期	－	0.00	－	10.00	10.00
2022年６月期	－	0.00	－		
2022年６月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　有

３．2022年６月期の連結業績予想（2021年７月１日～2022年６月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,569	－	732	－	734	－	469	－	89.60

(注)１．直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無
２．当社は、2022年６月期第２四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載しておりません。

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動　：有

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規　１社（社名）アイキューブド１号投資事業有限責任組合、除外　ー社（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：有

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：有

②　①以外の会計方針の変更　：無

③　会計上の見積りの変更　：無

④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年６月期３Ｑ	5,263,450株	2021年６月期	5,238,350株
②　期末自己株式数	2022年６月期３Ｑ	121株	2021年６月期	121株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2022年６月期３Ｑ	5,250,574株	2021年６月期３Ｑ	5,192,690株

※　四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料４ページ「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 4
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用） …… 8
（会計方針の変更） …… 8
（セグメント情報） …… 8
（重要な後発事象） …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

当社は、第２四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度末との比較分析は行っておりません。

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間における経済環境は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進む一方、変異株の感染拡大によって一部地域でまん延防止等重点措置が再度発令されたことに加え、昨今のウクライナ情勢の深刻化に対する懸念も広がっており、依然として先行き不透明な状況が続きました。

当社グループは「ITをもっと身近に」というミッションのもと、「笑顔をつくるソリューションカンパニー」というビジョンを掲げ、最良のテクノロジーと最高のエンジニアリングを用いることで創り出すサービスがそれぞれの企業活動に革新をもたらし、人々の生活をより豊かな方向へと導いていくイノベーションの連鎖を生み出すサービスの創造に挑戦し続けております。

当第３四半期連結累計期間においては、引き続き、今後の継続的な事業成長に向けて人員体制の強化を図るべく、開発部門、営業部門、カスタマーサクセス部門を中心とした人材採用活動を積極的に行ってまいりました。当社は、Great Place to Work® Institute Japanが世界共通の基準で従業員の意識調査を行う、2022年版「働きがいのある会社」ランキングにおいて、２年連続で働きがいのある会社として認定されており、優秀な人材獲得と定着に向けて、働く環境の整備に積極的に取り組んでおります。更に、2022年４月の新卒新入社員の２割は外国籍であり、多様性のある組織づくりが進んでおります。

また、当社グループの持続的な成長を実現するべく、新製品、新サービス、M&A、CVCを通じた新たな収益源の創出に積極的に取り組んでおり、第２四半期連結会計期間において、投資分野に特化した新部門を設置し、投資活動を開始いたしました。主な投資対象はモバイル、SaaS、セキュリティ等、当社事業領域と親和性の高い企業としております。加えて、社会課題解決型企業や、当社が本社を置く九州の地場で活動している企業についても投資対象とする予定であり、この投資活動により世の中にイノベーションの連鎖を創出し、新たな価値創造に寄与することで、ITがもっと身近な存在となることを目指してまいります。

このような取り組みの結果、当第３四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,821,880千円、営業利益665,905千円、経常利益666,800千円、親会社株主に帰属する四半期純利益460,524千円となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、第２四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の単一セグメントから「CLOMO事業」「投資事業」の２区分に変更しております。

① CLOMO事業

CLOMO事業においては、2010年から提供を開始したモバイル端末管理サービス「CLOMO MDM」及びモバイル端末向けアプリサービス「CLOMO SECURED APPs」を事業の主軸に、クラウドを利用したB to BのSaaS事業をサブスクリプションの形で提供しており、2021年12月に公表されたMDM市場(自社ブランド)シェアにおいて、2011年度から11年連続でシェアNo.１を達成しました(注１)。

当第３四半期連結累計期間においては、広島県への新たな営業拠点の開設準備に加え、引き続き、Web会議システムを用いたリモート営業と並行活用しながら、販売パートナーとの協業加速及び販売エリアの拡大を図るべく取り組んでおります。GIGAスクール構想(注２)によってデジタル学習が進む小中高等学校や、新型コロナウイルスへの対応を含め加速的に業務効率化やデジタル化を進めている医療機関におけるモバイル端末管理、リモートワークでのIT資産管理、製造業や運送業におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)推進に伴う業務専用端末管理など、社会変化に伴う新たなMDMの需要に対しては、導入事例記事を積極的に公開し、CLOMOサービスの活用方法や品質について、理解促進を図るほか、当該分野に強みを持つ新たな販売代理店の開拓を進めております。

また、MDM運用をサポートする新サービスとして「CLOMO運用代行サービス」を開始しました。近年はDXの重要性が叫ばれており、企業等のIT担当者は、デジタル技術を用いた事業や業務、働き方等の変革を担っている一方で、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、その業務量は増大し、本来取り組みたい変革にリソースを投入しづらい傾向にあります。「CLOMO運用代行サービス」を活用することにより、モバイルデバイスを使った管理業務の一部を代行することで、IT担当者の負担を軽減し、事業や業務、働き方等の変革に貢献してまいります。

カスタマーサクセス活動においては、顧客との関係強化に向けた定期的な面談の実施に加え、CLOMO MDMの基本的な利用方法から、より効果的な活用方法までを学べる「CLOMO ステップアップセミナー」を月数回開催するなど、高い継続率の維持に取り組んでおります。

開発においては、CLOMOサービスのPC管理市場でのシェア獲得に必要となる機能強化のほか、顧客のニーズに応えるための機能改善に引き続き注力しており、Azure Kubernetes Service (AKS)(注３)やXamarin(注４)といった新たな技術の継続活用や、一部開発業務の外部委託を進めております。社内の開発リソースを付加価値の高い開発業務に集中させるとともに、新たな技術を用いた生産性の向上を実現することで、製品開発やサービス運用の効率化による製品価値の向上及び原価の低減を目指してまいります。

これらの取り組みにより、導入社数は3,780社(前事業年度末に比べ389社、11.5%増加)に達しております。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による当第３四半期連結累計期間の経営成績や、当社が目標とする経営指標(CLOMOの導入社数の増加、ライセンス継続率)への影響は極めて軽微でありました。一方で、当第３四半期連結累計期間においても、引き続き半導体不足に伴うモバイル端末の調達不調により、一部顧客において、当社サービスの契約開始時期に遅れが生じております。

CLOMO事業においても、CLOMOサービスとシナジーのある事業を展開する企業を対象としたM&A、資本提携を積極的に進めていく方針であり、販路拡大やクロスセル商材の発掘、オープンイノベーションによる新機能開発などを通じた成長戦略の加速を図ってまいります。

この結果、売上高は1,821,880千円、営業利益は669,356千円となりました。

なお、サービス別の内訳は次のとおりであります。

CLOMO MDM	売上高	1,666,952千円
SECURED APPs	売上高	134,527千円
その他	売上高	20,400千円

② 投資事業

投資事業は第２四半期連結会計期間より開始した新規事業であり、2021年11月にベンチャーキャピタル子会社として株式会社アイキューブドベンチャーズを設立いたしました。また、2022年１月には当該子会社を通じてアイキューブド１号投資事業有限責任組合を設立し、投資活動を実施しております。

この結果、営業損失は3,450千円となりました。

(注)１．出典　デロイト　トーマツ　ミック経済研究所「コラボレーション/コンテンツ・モバイル管理パッケージソフトの市場展望」2011～2019年度、「ミックITリポート2021年12月号」2020年度出荷金額実績及び2021年度出荷金額予想。

２．2019年12月に文部科学省が打ち出した、児童生徒向けに１人１台の端末や、高速通信環境を一体的に整備することで、学習活動の一層充実や主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善の実現を目指す構想。

３．マイクロソフト社が提供するコンテナ化技術。CLOMOシステムをコンテナベースとすることで、信頼性の向上や運用負担の軽減、運用コストの削減を進めている。

４．マイクロソフト社が提供するアプリケーション開発用のプラットフォーム。iOS、Android、Windowsという異なる環境で動作するCLOMOアプリケーションのソースコードを共有化することで、開発速度の向上や省力化を進めている。

（２）財政状態に関する説明

当第３四半期連結会計期間末における財政状態については次のとおりであります。

(資産)

総資産は2,857,871千円となりました。その主な内訳は、現金及び預金2,063,409千円、売掛金222,065千円、その他流動資産210,205千円、ソフトウエア仮勘定132,745千円、投資その他の資産151,103千円であります。

(負債)

負債は720,179千円となりました。その主な内訳は、未払法人税等100,266千円、契約負債433,660千円であります。

(純資産)

純資産は2,137,692千円となりました。その主な内訳は、資本金401,682千円、資本剰余金301,682千円、利益剰余金1,432,872千円であります。この結果、自己資本比率は74.7%となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年６月期の連結業績予想につきましては、2022年２月８日公表の連結業績予想から変更はありません。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	当第３四半期連結会計期間 (2022年３月31日)
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	2,063,409
売掛金	222,065
その他	210,205
流動資産合計	2,495,680
固定資産	
有形固定資産	33,272
無形固定資産	
ソフトウエア	45,069
ソフトウエア仮勘定	132,745
無形固定資産合計	177,815
投資その他の資産	151,103
固定資産合計	362,190
資産合計	2,857,871
負債の部	
流動負債	
買掛金	40,264
未払法人税等	100,266
契約負債	433,660
賞与引当金	26,752
その他	119,235
流動負債合計	720,179
負債合計	720,179
純資産の部	
株主資本	
資本金	401,682
資本剰余金	301,682
利益剰余金	1,432,872
自己株式	△661
株主資本合計	2,135,574
新株予約権	2,117
純資産合計	2,137,692
負債純資産合計	2,857,871

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	当第３四半期連結累計期間 （自　2021年７月１日 至　2022年３月31日）
売上高	1,821,880
売上原価	265,549
売上総利益	1,556,330
販売費及び一般管理費	890,425
営業利益	665,905
営業外収益	
受取利息	42
受取配当金	739
その他	433
営業外収益合計	1,215
営業外費用	
その他	320
営業外費用合計	320
経常利益	666,800
税金等調整前四半期純利益	666,800
法人税等	206,276
四半期純利益	460,524
親会社株主に帰属する四半期純利益	460,524

四半期連結包括利益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	当第３四半期連結累計期間 （自　2021年７月１日 至　2022年３月31日）
四半期純利益	460,524
四半期包括利益	460,524
（内訳）	
親会社株主に係る四半期包括利益	460,524
非支配株主に係る四半期包括利益	－

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

2021年11月11日を払込完了日とする譲渡制限付株式報酬制度による新株式の発行10,000株により、資本金及び資本準備金がそれぞれ18,950千円増加しております。

また、2021年７月１日から2022年３月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が15,100株、資本金及び資本準備金がそれぞれ4,227千円増加しております。

これらの結果、当第３四半期連結会計期間末において、資本金が401,682千円、資本剰余金が301,682千円となっております。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

税金費用については、当第３四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号　2020年３月31日。）等を当期首から適用しております。これにより損益及び利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

当第３四半期連結累計期間(自　2021年７月１日　至　2022年３月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			四半期連結損益計算書計上額(注)
	CLOMO事業	投資事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,821,880	－	1,821,880	1,821,880
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－
計	1,821,880	－	1,821,880	1,821,880
セグメント利益又は損失(△)	669,356	△3,450	665,905	665,905

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

（報告セグメントの名称変更）

第２四半期連結会計期間より、従来「ライセンス販売事業」としていた報告セグメントの名称を、より事業内容に即した「CLOMO事業」に変更しております。

なお、報告セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

（報告セグメントの区分変更）

当社グループは、2021年11月に株式会社アイキューブドベンチャーズ設立に伴い、当社グループの企業活動の実態に即したより適切な経営情報の開示を行うため、第２四半期連結会計期間より、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の単一セグメントから、「CLOMO事業」と「投資事業」の２つを報告セグメントとしております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。